

子どもは

大人を

見て育つ

富岡 量秀

『2026年難波別院カレンダー』4月のことば



掲示板のことば

中二の息子が、「開けっばなし」、「脱ぎっぱなし」などでよくお母さんに叱られている。そしてそのあと必ず「あなたがちゃんとしてくれへんから」と、こちらに火種が飛んでくる。一方娘はというと、兄妹で言い合いをしている時に言葉がきつい事がある。私はその時ひそかに「お母さんにそっくりやな」と思っている。

この標語はまさにその通りで、親の言う事は聞かないが親のしている事はよく見ている。そして似たような事をするようになる。親として子どもをどう教育するかという以前に、私たち親は生活態度として良くも悪くも子どもに毎日プレゼント

を与えているようだ。

私も同じように親を見て育ってきたのだが、一体何をプレゼントしてもらったのだろうか。思い付いたのは、子どもの頃に見ていた父のように、毎晩ビールとコップを冷やして飲むということくらいだ。毎日の習慣や言動、その時々起こってくる感情までも、もらったという感覚は一切なかった。だが子どもたちの事を考えると、私もきつと毎日毎日、たしかにプレゼントをもらってきても今があるのだろう。

この標語は、親の責任の重さをあらためて知らされると同時に、私に向かって、「忘れているようですが、あなたは大切に育てられたですよ」と教えてくれているようにも感じた。(大阪教区教化センター)

今月のことば

十方三世の無量慧

おなじく一如に乗じてぞ

二智円満道平等

摂化随縁不思議なり

この和讃を私なりにい
ただいてみますと、まず
「十方三世の無量慧」とは、
あらゆる方向、あらゆる
時代（過去・現在・未来）
におられる仏さま方を讃
える言葉です。その仏さ
ま方は、私たちの思いは
からいをはるかに超えた、
はかり知ることのできな
い智慧をそなえておられ
ます。現代では「知恵が
ある」「知識がある」とい
った意味でも使われるこ
ともありますが、智慧と
は、仏が迷いを超えた真

実そのものを見通
す力のことを指し
ています。「おな
じく一如に乗じて
ぞ」とは、すべて
の仏さまが同じ真
実の道理によって
仏となられたとい
う意味です。

そのような仏さま方で
あるからこそ、「二智円満
道平等」と讃えられるよ
うに、迷いの中にある私
たちを平等に導き、救い
の道が開かれていること
を示してくださるのです。
そして「摂化随縁不思議
なり」とは、仏さまの救
いのおはたらきが、さま
ざまな縁を通して私たち
に届いていることを讃え
た言葉です。どのような
境遇にあっても、阿弥陀
如来は私たちを摂め取り、

縁に随って導いてくださ
る。不思議という言葉で、
私たちの思いはからいを
超えた仏のはたらきが讃
えられています。

私は昨年まで大学で仏
教を学んでいましたが、
もともとお寺の生まれで
はなく、祖父母の家がお
寺であったというだけで、
高校までは仏教にほとん
どふれることのない生活
を送っていました。それ
でも仏教を学ぼうと思っ
たことは、今振り返ると
自分の思いやはからいを
超えた大きなはたらきに
よって導かれたもののよ
うに感じます。

学生時代には無かった、
さまざまな出来事や人間
関係に向き合う中で、思
い通りにならないことや
苦しさを感じる場面も多
くあります。しかし、そ
のような現実の中で、仏
さまの教えを通して物事
を受けとめ、自分自身を
見つめ直すことが出来る
ようになったのも、教え
に出遇わさせていただいた
「はたらき」があるからだ
と思っています。

（横山 美瑠）

今月のことば出典『浄土和讃』
『真宗聖典』（初版）482頁
（第二版）577頁
『増補 真宗大谷派 勤行集』
（青本）126頁

「へ知ってる?」仏事のあれこれ

「花まつり」って

なあに?



〜人とのつながりが大切〜

羽曳野市 妙善寺 林 一二三

四月八日は、お釈迦様のお誕生日です。花御堂に飾られたお釈迦様に甘茶をかけてお祝いする、その行事が「花まつり」です。

自坊では、二年前から花まつりに音楽法要を行っております。始まりは、親鸞聖人七五〇回忌法要の際に、法要の一つとして行ったのがきっかけでした。その際にとっても好評だったので、花まつりで音楽法要をできたらなあと思っておりました。

それから、月日が流れ

コロナ禍となり、人との交流が出来ない状態の中、この音楽法要をもう一度行いたいと一番待ち望んでいた前住職が亡くなりました。計画が白紙に戻りそうになっていたのを住職が「コロナも落ち着いてきたし、前住職の想いをつなげよう」とご門徒さん達に声をかけて、たくさんの方に協力していただき、一昨年改めて第一回目の花まつり（音楽法要）を勤めることが

出来ました。

当日は、それまでの天気予報とは打って変わってお天気にも恵まれ、桜の蕾も数日前まで硬く、開花に時間がかかっていました。一気に満開となり、前住職がその日の為に用意してくれたかの様でした。

いろんな方が足を運んで下さり満堂になった本堂で、いろんな演奏を若男女問わず、皆さんが一体となって笑顔で聴いている姿は何ものにも代え難い素敵な時間でした。私は司会を担当させていただきました。いただいたのですが、その中で音楽を通して自分の思いを話す機会をいただきました。内容は支離滅裂で、聞いてる方に申し訳ない気持ちと全体をうまく進行できなかった

ことに、気持ち沈んでいましたが、終わった後にご門徒さん達が「良かったよ」と声をかけて下さり、すごく気持ちが楽になりました。いろんな方が参加し、見守って下さり、温かい言葉をかけていただけるのはとても有難い事です。

今は昔のように家族の法事でも集まる機会が減っている中で、お寺にご門徒さんだけではなく、近隣の方々も足を運んで下さるそういった繋がりはとても大切なものです。前住職はきつと、その「共に」や「繋がり」を大切に思っていたのではないのでしょうか。私達もその願いを引き継ぎ、これからも精進していききたいと思えます。



仏教マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (249)

花まつり

4月8日 灌仏会

お釈迦様の
誕生日！

甘茶を
かけよう

わたしが先！

ぼくが先！



まあまあ
けんかは
止めようよ



それより見てみて
この仏さまを
君たち2人に
紹介するよ



なになに？



お釈迦さまは
この姿で
生まれてきたん
だけどね



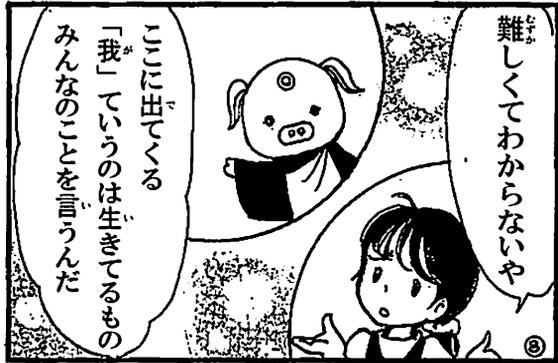
それだね

「天上天下唯我独尊」
とおっしゃっているんだ



難しくてわからないや

ここに出てくる
「我」っていうのは生きてるもの
みんなのことを言うんだ



お釈迦さまはね
勝ち負けじゃなくて
みんな



尊い存在なんです
つて呼びかけて
くれているんだよ

何かわかんないけど
一緒に甘茶かけよう！

わかんないの
かーい(笑)

